

# 「市民編集委員」任期を終えて

市民が市民の目線で企画編集する市民編集のページ。公募で選ばれた8人が、2年にわたって、取材や編集に奮闘しました。ここでは、任期を終えての感想などを紹介します。

問い合わせは 市政発信課 ☎898-6642



**皆さまの協力に感謝しています**  
加藤純子（文京町三丁目）

市民編集委員となり、最初は関東精機と吉田鉄工所の見学。2回目は電気自動車と新エネルギーである小水力発電の取材に取り組みました。それぞれ現状に満足せず前向きに歩む姿勢に驚きました。

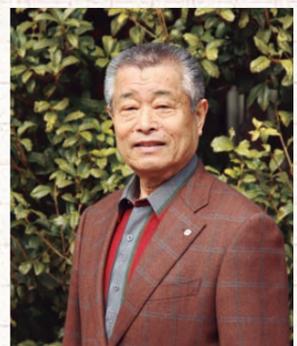
広報まえばしは、広く関心を持って読まれているでしょうか。私は、市民編集委員として、自ら取材してきたことを機会があれば話題にし、今まで以上の広報活動をしてみようと思ってきました。この2年間、本当に多くのよい経験ができました。これからも多くの皆さまに市民編集委員になってもらい、広報紙の取材や編集で活躍してもらいたいと思います。



**これからも愛される紙面に**  
杉山市郎（関根町）

今、多くの媒体によって情報が飛び交う中、市民の暮らしに直結する情報源である市民編集を担うことができたことは大変ありがたいことでした。ここでは市の様子や市民の活動がどう生かされているのかなど、地域の多くの人々から貴重な時間をいただき勉強になりました。皆さまに感謝しています。取材は、活動している人の話や多くの施設での見学は楽しく心に残ることでした。そして、特に紙面に写真などを多用できたことをうれしく思いました。

これからも市民による市民のための愛される市民編集のページであり続けていくことを願っています。



**介護予防の経験を生かして**  
川上靖二（川曲町）

市民編集委員となったことでの責任感もあり、以前とは違った視点で広報まえばしを細部にわたり目を通すようになりました。

私が担当した取材の中で一番印象に残っているのは、介護予防サポーターの取材です。私も介護予防サポーターの資格を持っています。介護予防サポーターは、各地区で高齢者対象のいきいきサロンなどを企画しています。ピンシャ元気体操での筋力アップやゲーム、お茶を飲みながらの楽しい会話。介護予防サポーターが、高齢者の人たちの生活を支援する姿は、これからの高齢者社会にむけての礎になると思っています。



**まだまだ勉強を続けたい**  
手塚正一（岩神町三丁目）

市民編集委員として参加して2年が経ちました。数回の取材記事を書きましたが、どれだけ皆さんに伝えられたかはなはだ疑問です。こういう言葉を使えばよかった、ああいう表現にすればよかったと反省している間に時間が過ぎてしまったように思います。

自分なりに理解していることも、正確に他人に伝えるためには、どういう言葉選びや表現をすればいいのか、考えれば考えるほど難しくなるように感じました。物事に対する知識や伝達手段としてのボキャブラリーなどが貧困であることが、大きな反省点です。まだまだ勉強していきたいです。



**多くの人の「心」に届けたい**  
吉田法子（富士見町原之郷）

市民編集委員として3年間、取材や編集に携わらせていただきました。中でも、最も強く心に刻まれたのが、地域の自主防災対策の現状や課題の取材でした。東日本大震災から2カ月余りのこと。私たちの足下を走る大規模な断層帯の存在すら知らず、災害時に大きな力を発揮する近所との関係も希薄な自分に気づかされました。

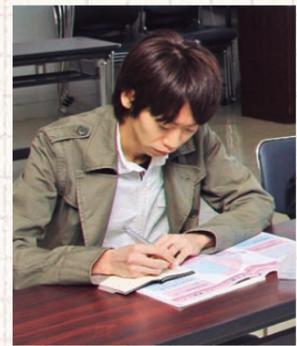
取材を通じて学んだことを一人でも多くの人々の「心」に、お届けすることができたら……。そのような願いを、記事に込めました。市民参加の窓口としての広報紙編集という貴重な機会をいただいたことに深く感謝しています。



**この経験を有意義なものに**  
古田島俊憲（龍蔵寺町）

市民編集委員として記事を書く上で行う取材では、次々ことを心がけていました。まず、取材を受ける人が記事にしてほしいこと、一番訴えたいことをしっかりと聞き出すという事です。聞く側である私の主観は抜きにして、変な先入観を持たずに聞くようにしました。さらに、取材したことをもとに文章にする際にも、やはり必要以上に主観を交えずに取材した内容を忠実に文章にしました。

これからもさまざまな場面で文章を書く機会があると思います。今回学んだことを生かしていければ、市民編集委員としての活動が有意義なものだったといえるでしょう。



**やりがいと責任感を感じて**  
山田大貴（国領町二丁目）

私は、介護予防活動についての記事を担当しました。介護予防という若年層には関わりが少なく、私自身も馴染みがありませんでした。しかし、市独自の介護予防活動があることを知り、もっと市民の皆さまに知ってもらいたいという感情が生まれました。2年間、市民編集に携わることに、人に言葉を伝える難しさや社会貢献することのやりがいや責任感を知ることができました。

また、市民編集をより多くの人に知ってもらうことにも努力しました。今後も市民と町が一体となり、高齢者がさらに安心して暮らせる町づくりに貢献していきたいです。



**多くの人たちの熱い思い**  
高橋大樹（駒形町）

2年間、市民編集委員として、会議や取材などに携わる中で特に印象に残っていることがあります。それは、前橋のため、そこに住む市民のために活動する人々の情熱です。会議では、市民編集委員や担当者が、今、市民がどんな情報を知りたいのか、どうすれば見やすい紙面になるのかを考案議論を交わしました。

また、取材では多くの人の「前橋をより良くして行こう！」という熱い思いを知ることができました。前橋に住む人々のために、日々情熱を注ぎ頑張っている人がいます。私も、これからも自分のできることを頑張っていきたいです。ありがとうございました。

**市民編集委員として  
広報紙作りに参加を**

市民編集のページの企画・取材・原稿執筆などを行う市民編集委員を募集します。あなたも広報紙作りに参加してみませんか。

対象＝市内在住の18歳以上、8人(選考)  
任期＝4月1日(日)～平成26年3月31日(月)  
申し込み＝3月15日(木)までにハガキで。住所・氏名・年齢・性別・職業(学校名)・電話番号を記入し、市役所市政発信課「市民編集委員係」(☎898-6642)へ